

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字池尻887番地1		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果確定日	平成29年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設14年が経過し、地域の認知度も増加してごく自然に交流や支えあい実践できるようになったと思います。何より利用者が落ち着いた日々を送っていることが大なる成果ではないかと思っています。職員の介護職としての総合的な育成にも力をいれておりますが未だ道半ばの感があります。今後とも職業能力を高めながらの自己実現の達成を目標としていく姿勢を堅持して参ります。利用者との処遇については、これまで通り思いやりの気持ちを最大限に発揮し得る介護サービスの提供をして参ります。開設当初からの入居者が全員入れ替わった節目でもあり、一期一会の気持ちを大切にしていきたいと思っています。来年度、新たに事業所の新築移転を計画しております。新施設での更なる飛躍を目指して努力していきたいと念願するところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恒例の近隣の小学校との七夕交流会は、今年度も詳細な事前訪問や打ち合わせが行われ、小学校でも年間行事に組み込まれている。又、地域の敬老会への参加や神幸祭の神輿、獅子舞の来訪もあり、ホームの雰囲気が良いと町内からの入居者も多く、町内の方の立ち寄りもある。ケア目標を達成するために、事故、失禁、時間のロス等をゼロにすることを掲げ、課題抽出シートに気付きを記入したり、管理者に入居者の変化を随時オンコールするなど、より現状に即したケアを実践している。そして、挨拶の呼唱や言葉使いなど人権に配慮する職員の意識付けを図り、管理者は若い職員には、親の様に社会常識の指導や相談に応じ、人材育成に努めている。定期的に開催されている運営推進会議では、次年度に予定している移転について説明するなど、地域に密着したサービスの展開が拡大している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **いきいきハウス池尻**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創業からの理念の他に、年次重点テーマを掲げ、毎朝呼称し、職員への周知をしている。	事務室に掲げたケア目標を達成するために、事故、失禁、時間のロスをゼロにすることを掲げている。その内容に驚き質問する新規入職者に、管理者は入居者の心身の状況を踏まえたケアについて、具体的に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政区や隣組との付き合いを生かし、地域交流できるように取り組んでいる。	恒例の近隣の小学校との七夕交流会は、今年度も詳細な事前訪問や打ち合わせが行われ、小学校でも年間行事に組み込まれている。地域の敬老会への参加や神幸祭の神輿、獅子舞の来訪もあり、事業所としての地位を築いている。	これまでに培った地域との交流を継続しながら、又移転先の状況に応じた地域交流を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の転倒防止教室では、役場の保健師の講義に合わせて、高齢者の体動の特性について事例を述べることもあり、今後も認知症の特性などの発表の機会を伺い参加したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見について適切に対処し、改善や工夫を行い、運営に生かしている。	ホームの業務や参加者の都合等を配慮し、家族や自治会長、民生委員などの参加で定期的に開催されている。前回の会議では、年度内の行事などの振り返りや次年度の予定している移転について説明している。	整備している会議録をホーム内で公表したり、抄録を掲示することで、運営推進会議のさらなる活用を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談が頻繁に行われており、行政の訪問や要請も多々ある。	居室情報については随時連絡している。市担当者が入居希望者を同伴で来訪することもある。入居料が安価なことについて率直な質問もあり、丁寧な説明を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束も含めた介護周辺の知識が浅い職員が多い為、日々のサービス提供の折や座学にて理解を深める実践を行っている。	全職員に身体拘束に関する具体的な内容について周知している。「待つ」などの入居者への言葉かけが拘束になることも理解し、日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相互監視による報告を義務化し、密室介護にならないよう細心の注意、情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での習熟チェックを行い、権利擁護の気持ちが浸透するようにしている。	入居時からホームで通帳管理をしている方が2名居るが、現在まで日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はない。随時制度等が活用できるようにパンフレットを整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し、納得いくまで確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望は、出しやすい雰囲気でごちからからお尋ねもし、責任者へ必ず伝達されるようにしている。	案内した11月の文化祭は4名の家族が来訪し、意見を伺う機会となっている。管理者は電話で、家族と新年のあいさつを交わしたり、入居者の状況を報告している。入院するのは良いが帰ってこれるのかなどの家族の心配には、管理者が早急に電話で対応している。トイレ設備に関する意見には、移転することで承諾を得ている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で出された意見を検討反映させるほか、日々の気づきを吸収する工夫をしている。	日々の気づきなどを申し送りノートを活用して、全職員が共有している。内容を確認し捺印することで、全職員が把握したかを確認している。運営者や管理者は、日頃から職員の意見を聞く機会を設けている。	定期的な職員会議を開催し、入居者の転倒骨折の事例について、全職員での経緯や予防策などの話し合いを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐のある職場作りを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は公平である。社会参加や自己実現の取り組みを今後充実させたい。	ハローワークやパコラで職員を募集し、資格の有無ではなく、人間性で採用している。試用期間を設け、業務内容を指導しているが、今年度は実践者研修に2名が参加し、知識やスキルの向上を支援している。系列事業所内の異動もあり、管理者は若い職員には、親の様に社会常識から指導し、相談に応じている。有給休暇や希望休暇も取得されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を通じて、人権尊重教育を実施し、サービス提供に生かしているか、実践状況の把握に努めている。	事務所に、挨拶の呼唱や言葉使いなど人権に配慮する事項が掲示され、職員の意識付けを図っている。入居者を可愛いと話す職員に対しては、入居者の年齢や人格を尊重した言動かを正す指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者の就業者も多く、研修はマニュアルを作成して習熟度の応じた取り組みを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会で知り合った施設や職員との交流を深化し、相互訪問や情報交換が行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して穏やかに過ごせる見通しが確立するまで、初期アセスメントを継続し、生活基盤作りを優先させている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを通じて適切に行っている。特に言いにくいことがないか、投げかけを大切にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスの利用が第一優先である、という認識の下でニーズの確認を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協力しながら、支えあいながら、ともに暮らす、という雰囲気ができている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用開始当初から、協力を要請し、家族の関与を引き出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援を得て、本人の意思を尊重している。	ホームの雰囲気が良いと町内からの入居者も多く、毎週来訪する家族もあり、敬老会の参加や家族と過ごす時間を支援している。町内の方も立ち寄りられ、職員は笑顔で迎えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独にならないよう、協同レクリエーションや作業を通じて、さりげない支援を継続している。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折々訪問するなど、安否確保に努めている。年間カレンダーは毎年届けて、関係が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じて安心して穏やかに過ごせるように把握に努めている、初期アセスメントを継続し、生活基盤作りを優先させ、本人本意の把握に努めている。	フェースシートやアセスメントシートに入居者の情報を整備している。日々の気づきは申し送りノートで共有したり、経過記録に記載しており、必要な事柄は管理者からも伝達されている。	認知症に特化したアセスメント項目により具体的で詳細な症状を記載し、背後のある入居者の思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前段階での情報収集や、関係者からの聞き取りを通じて、本人本意に行われている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する心身状態や健康管理面の情報を適切に分析し、個々人に合わせた支援に繋げている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを適切に行い、モニタリングを通じて現状ニーズの把握をし、最適の計画を作成、実行している。	入居者や家族の意向を明記し、具体的目標に沿った介護計画を作成している。課題抽出シートに気づきを記入したり、管理者に入居者の変化を随時オンコールするなど、より現状に即したケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有・計画の見直しについては、職員間の連携がとれており、適切に行われている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	場合によっては、外部サービスの利用を検討したり、アイデアや業務改善により、柔軟に取り組む姿勢がある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や商店街等の催事の活用など、積極的に取り組みされている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、希望の医療機関への受診が行われている。	定期的な内科や歯科の訪問診療を受けている。協力医療機関との連携は良好で、同伴した職員だけではなく管理者にも、随時受診状況について連絡をもらっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の把握は、日々観察の中、カンファレンスの際に、ともに情報の共有を行い、適切に医療機関に繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けての取り組み、また、入院中のメンタルケア等、豊富に取り組んでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時での希望を元に、状態変化時において、ご家族・本人の希望を踏まえた方針を示すことにしている。	開設以来看取りはない。看取りを希望される家族もいよいよ段階で「病院に搬送してほしい」と希望されることもあり、家族の意向を重視した支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて、各職員の能力に応じた訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政区の避難場所への誘導時において、地域住民への協力を要請している。	消防車が5分で駆けつける場所に開所し、昨年の11月末、消防署の指導で消火器の取り扱いやシート搬送を演習している。乾パン、飲料水、缶詰、お米などを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者へは敬語で接することを基本に、尊重する姿勢で臨むよう指導を行っている。	入居間もない方が靴の置き場所を確認された折や、食事中や食後にもさりげない声かけは行われていた。職員の入居者のへ声かけや対応は穏やかであった。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みの食材の調査を行ったり、今日の食べたいものに合わせたメニュー変更など柔軟に行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望の表出を見逃さず、さりげなく促すなど、希望を叶える行動をとっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択ができる取組を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の自発的な行動を尊重しながら、食事に対する関わりを持たせるよう支援を行っている。	職員手作りの食事やおやつは入居者の楽しみになっており、職員は「みんなで食べると美味しいね」と声かけながら、視力障害のある入居者の摂取量を把握したり、食事を介助している。食後下げ膳をしたり、テーブル拭きや食器・トレイ拭きをお願いする入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のバランス、摂取量の把握を通じて、臨時に医師とも相談をしながら行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として自発的にケアができています。歯科医の支援も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活支援の中の重要な活動と捉え、支援促進を積極的に行っている。	トイレでの排泄動作を生活の中での機能訓練と位置づけている。布パンツの入居者もあり、失禁ゼロを目指し、入居者の排泄パターンに応じた声かけや誘導が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との連携の中で、主体的に取り組んでいる。特に食物繊維奨励、運動、水分の把握に努め、自然排便を促すよう取り組みしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のパターンは職員が決めているが、本人の意思を尊重することができるような柔軟さを持たせている。	週3回、入浴を支援しているが、大腿骨骨折で温存療法中の入居者は清拭で対応している。入浴を億劫がる入居者はいないが、車イスの入居者もあり、職員2人体制で支援する場合もある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠への過程で、安らぎを持たせる支援を行って、安眠が確保できるよう、取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳により用法や副作用などは把握できている。医師との連携により適切な支援ができています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の性格を活かした支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と相談をしながら、行きたい場所への支援を行っている。10年ぶりに実家への帰宅を望んで実現し、先祖の位牌を拜んで喜ばれた方もいた。	看板犬との散歩が習慣となり、調査日も防寒着を着用して2名の入居者が散歩に出かけていた。地域の名所に藤の花見に出かけたり、母の日には近所の喫茶店でケーキセットを楽しんでいる写真が、壁にコメントとともに掲示されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持することはほとんどないが、施設の買い物に出かける際、利用者が支払い、計算することを支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	折々の時候の挨拶を、はがきや手紙で行えるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出せるよう、利用者と工夫して行っている。	玄関を入ると右側は共用空間があり、傍に厨房、中央にテーブルやイス、その奥にソファや大型テレビが設置されている。壁には行事毎の入居者の笑顔満載のスナップやコメントが掲載されている。調査日は入院している入居者に贈る折鶴作りが和気藹々と行われていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カーテンや金具の仕切り、庭の東屋での会話の場面など、過ごし方を工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持ち込んでもらっており、居室の工夫はご家族とともにしている。	各居室入口には、大きく入居者名が掲示され、居間違いを防いでいる。各居室は日用品が持ち込まれ、整理整頓されている。壁面には職員作成の似顔絵や退院後のウェルカムポスター等が掲示された居室もあり、温かな雰囲気を保っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は見守りに徹し、利用者の自立主体で支援を行っている。		